

「土砂災害から命を守るために」

宮崎県 日南学園中学校 3年 河野 惟<sup>かわの ゆい</sup>

日本は山が多く、雨も多い国です。そのため、毎年のようにどこかで土砂災害が起こっています。私はテレビやスマートフォンのニュースで、「土砂崩れで家が押し流された」「避難が間に合わず人が亡くなった」といった報道を何度も見てきました。とくに近年は、異常気象といわれるような大雨が増えていて、災害の規模も大きくなってきていると感じます。土砂災害は自然が引き起こすものなので完全に止めることはできませんが命を守るために備えることは私たちにもできます。私はこの作文を書くことで、自分にできることをあらためて考えてみました。

私が住んでいる地域には、川が近くにあります。「ハザードマップ」を使って自分の家の周辺を調べてみたところ、洪水がすごいことがわかりました。それまで私は、自分の住んでいる場所は安全だと思っていたので、とても驚きました。同時に、「もしも大雨が続いたら、うちも被害にあうかもしれない」と不安にもなりました。

その日の夜、私は家族と一緒にハザードマップを見ながら、土砂災害が起きたときにどう行動すればいいか話し合いました。どこの避難所に行くのか、何を持っていくのか、どの道を通るのが安全なのかを一つずつ確認しました。スマートフォンに防災アプリを入れて、警戒レベルや避難情報がすぐに見られるようにしました。また、家にある非常用持ち出し袋の中身を点検し、足りないものを買い足しました。防寒シートや懐中電灯、非常食、飲み水などを準備しておくことで、避難生活でも安心できます。こうした備えをしておけば、災害が起きてもすぐに行動できると思います。

しかし、どれだけ準備していても、本当に大切なのは「早めに避難」だと思います。これまでの災害ニュースでは、「避難が遅れてしまった人」が大きな被害に合うケースがよくあります。とくに「まだ大丈夫だろう」「もう少し様子を見てから」と思ってしまい、逃げ遅れる人が多いと聞きました。土砂災害は、雨の量が多くなったときに突然起こることがあります。私も、「今のうちに避難しよう」と自分で判断できるようにしたいと思いました。そのためには、ふだんからテレビやスマートフォンの気象情報をチェックしたり、学校や自治体からの避難情報をしっかりと確認したりすることが大切です。

学校でも、毎年のように防災訓練が行われています。正直、これまでは「またか」と思って真剣に取り組めていなかったこともありました。でも、最近のニュースを見たり、自分の住んでいる地域の危険を知ったりしたことで、防災訓練の大切さを感じるようになりました。実際に避難する練習をしておくことで、いざというときに落ち着いて行動できるようになります。防災訓練は「命を守る練習」なのだと、今では強く思っています。

土砂災害を止めることができなくても、私たちの行動しだいで命を守ることはできます。そのためには、「自分に関係ない」と思わず、日ごろから防災に関心を持ち、自分で判断し、早く行動することが大切です。そして、家族や地域の人たちと協力し合って、助け合う心を持つことも忘れてはいけません。

## 令和7年度「土砂災害防止に関する絵画・作文」作文中学生の部 砂防協会長賞

私はこれからも、家族や友人とともに災害への備えを続け、土砂災害から自分と大切な人たちの命を守るために行動していきたいです。そして将来、大人になったときには、自分の経験を生かして、子どもたちにも防災の大切さを伝えていけるような人になりたいと思います。